

# 昭和六十年年度 研究所報告

(役職名・身分等は昭和六十年のものである)

## 一、組 織

一、所 長 古田和弘

一、主 事 片野道雄

一、研究所委員会 廣瀬 晃学長・福島光哉文学部長・花山大成事務局長・鍵主良敬大学院文学研究科長・安藤智信  
短期大学部長・武田武麿学生部長・大桑 斉図書館長・長崎法潤教授・小川一乘教授・藤島建樹  
教授・鈴木幹雄教授・松村尚子助教授・友田孝興助教授

一、昭和六十年年度研究班

## 指定研究(特定研究)

◎研究名 真宗学事研究

研究課題 「大谷大学三百年史編纂・それに関する文献資料の研究」

代表者 学長 廣瀬 晃

研究員 鈴木幹雄(チーフ・教授・倫理学) 大桑 齊(教授・日本仏教史学) 木場明志(専任講師・国史学)

草野顕之(専任講師・日本仏教史学) 古田和弘(所長・教授・仏教学) 片野道雄(主事・助教・仏教学)

嘱託研究員 福島和人(大谷高校教諭) 西田真因(大谷専修学院指導)

研究補助員 三本昌之(修士課程修了生・日本仏教史学) 深田虎雄(博士課程修了生・日本仏教史学) 片山伸、金石忍、熊木剛、宮崎健司、綿谷勝信(以上博士課程)

◎研究名 海外仏教研究

研究課題 「海外における仏教研究に関する方法論の研究および文献資料の収集」

代表者 学長 廣瀬 晃

研究員 長崎法潤(チーフ・教授・インド学) 多田稔(教授・英文学) 箕浦恵了(教授・西洋哲学) 安富信哉(専任講師・真宗学) 古田和弘(所長・教授・仏教学) 片野道雄(主事・助教・仏教学)

嘱託研究員 今井亮徳(開教使・在米) 今枝由郎(フランス国立中央科学研究所研究員) 大河内了義(神戸大学教授) リノ・ペリーニ(本学非常勤講師) ジャン・ノエル・ロベール(フランス国立中央科学研究所主任研究員・高等学院講師) 彦坂周(アジア文化研究所長・インド、マドラス) 宮下晴輝(助手・仏教学) ロバート・ローズ(本学非常勤講師)

研究補助員 ベンジャミン・H・渡辺（神戸商科大学博士課程修了生）橋本篤司（博士課程）

◎研究名 西蔵文献研究

研究課題 「大谷大学所蔵の北京版西蔵大蔵経及び蔵外文献の文献研究」

代表者 学長 廣瀬 杲

研究員 小川一乘（チーフ・教授・仏教学）片野道雄（助教授・仏教学）小谷信千代、白館戒雲（以上、専任講師・仏教学）

研究補助員 松田和信（本学非常勤講師）中野素（博士課程）

◎研究名 大蔵経学術用語研究

研究課題 「浄土教関係典籍における学術用語の総合的研究」

代表者 学長 廣瀬 杲

研究員 神戸和磨（チーフ・教授・真宗学）古田和弘（教授・仏教学）木村宣彰（専任講師・仏教学）延塚知道（専任講師・真宗学）一色順心（専任講師・仏教学）

研究補助員 安藤文雄、三明智彰（以上本学非常勤講師）萩原晃俊（博士課程）

一般研究〈共同研究〉

◎研究テーマ 「『教行信証』章節の共通表示化への研究」

代表者 幡谷 明教授

研究員 幡谷 明(教授・真宗学) 安富信哉(専任講師・真宗学)

嘱託研究員 藤嶽明信(助手・真宗学)

研究補助員 畠山正信(博士課程修了生・真宗学) 武田定光・鳥越正道(いずれも博士課程) 畑辺初代・尾崎秀

行・金信昌樹(いずれも修士課程修了生・真宗学) 佐藤智水(修士課程) 辛嶋静志(東京大学・博士課程)

◎研究テーマ 「真宗寺院史料の研究」

代表者 北西 弘教授

研究員 北西 弘(教授・日本仏教史学) 堅田 修(教授・国史学) 大桑 斉(教授・日本仏教史学)

草野顕之(専任講師・日本仏教史学)

嘱託研究員 上場顕雄(本学非常勤講師)

研究補助員 片山 伸(博士課程)

◎研究テーマ 「『オックスフォード運動』の意義とその影響について」

代表者 多田 稔教授

研究員 多田 稔(教授・英文学) 内藤史朗(教授・英文学) 鈴木繁一(助教授・英文学) 佐々木正昭(専

任講師・教育学) 村瀬順子(専任講師・英文学)

一般研究〈個人研究〉

◎研究テーマ 「『注維摩経』の研究」

研究者 木村宣彰専任講師

◎研究テーマ 「真下飛泉研究」

研究者 佐々木正昭専任講師

◎研究テーマ 「保育者養成機関における宗教教育の現状と課題」

研究者 松村尚子助教授

二、「研究所報」の発刊

第一三号

一、「大谷大学三百年史」に向けて……………廣瀬 泉

一、昭和六十年「指定研究」研究計画紹介

一、昭和六十年「一般研究」研究目的紹介

・『教行信証』章節の共通表示化への研究……………幡谷 明

・真宗寺院史料の研究……………北西 弘

・「オックスフォード運動」の根本理念と意義……………多田 稔

・『注維摩経』の研究……………木村宣彰

・真下飛泉研究……………佐々木正昭

・保育者養成機関における宗教教育の現状と課題……………松村尚子

一、昭和五十九年度「指定研究」研究経過報告

・真宗学事資料の研究……………草野顕之

・海外における仏教研究の文献・資料に関する研究……………長崎法潤

ロバート・ローズ

山野俊郎

- 大谷大学所蔵の北京版西藏大蔵経及び蔵外文献の文献研究……………小谷信千代
- 浄土教関係典籍における學術用語の総合的研究……………一色順心

第一四号

一、海外仏教研究・研究会報告(要旨)

- アメリカ仏教の一面—アメリカを旅行して……………多田 稔
- T・フェッター博士をかこんでの學術懇談会

一、海外仏教研究・研究会報告

- アメリカにおける真宗学の動向—ウィスコンシン大学「浄土教ジョイント・セミナー」に参加して……………安富信哉
- 中国の仏教研究……………楊 曾文
- 印度仏教に於ける一切智 (sarvajña) の概念の発達……………アレクサンダー・ノートン
- On Understanding Religious Men and Women……………John Ross Carter

一、海外仏教研究・報告

- タルパリン寺院教学院(中央ブータン)における「仏教学」……………今枝由郎

### 三、「指定研究」の動向

#### ◎真宗学事研究

#### 「大谷大学三百年史編纂・それに関する文献資料の研究」

「真宗学事研究」は昭和六十年年度に「大谷大学三百年史編纂」を目指し、「それに関する文献資料の研究」を課題とすることになった。それにもなつて本研究は従来の資料研究を継続しながら、それを再度点検し、大学史編纂の準備のために整備することを主眼とした。資料研究の意図は一方で、大学史編纂に必要な資料を調査・収集し、翻刻ないし複写して利用しやすくすることにあるが、他方で、基礎資料の読解を通して従来の学事研究を批判的に継承しながら、新しい大学史観を模索することにあつた。この二重の意図に従つて資料検討会も月一回開き、学事研究上の技術的問題を処理すると同時に、学事研究上の新しい問題を掘り起こしてきた。研究員は研究補助員の作業を指導しながら各自のテーマを設定したが、年度半ばで『真宗』連載の「大谷大学―三二〇年史が語るもの―」の執筆に参加することに成り、そこで与えられた課題を追究し、二月の研究会で発表した。嘱託研究員はそれぞれのテーマについて三月の研究会で発表し、学事史の根本的な問題を指摘することになった。なお七月に懇談会で研究代表者（学長廣瀬教授）から大谷大学史編纂の思想的課題についての見解が語られ、資料研究に大きな刺激と一つの方向が与えられた。（談話の一部は「『大谷大学三百年史』に向かつて」と題して『研究所報』一三号に掲載されている）

〈資料整備〉 前年度からの作業の経過は次の通り。

一、『上首寮日記』、『講師寮日記』の翻刻終わる。(但し、本文の厳密な校訂は将来の刊行の際になされることになる)。  
二、『中外日報』から大谷派の学事に関わる記事を採録する作業は大正三年〜昭和三年の期間を終わる。各事項はカード化して年表の作成に備える。

三、学寮・大学の諸条規の編纂。

四、『厳如上人御事蹟記』の校訂。

五、学寮創設期の資料採訪のために太宰府市、唐津市に出張(木場・草野研究員、三本研究補助員)。

六、図書館所蔵の旧宗学院文書の点検。

七、資料目録の作成。これまで収集された資料はカードに記され、いくつか目録も作られてきたが、それらを一つにまとめて目録を作る必要があった。そこで、『大谷派学事史』・『真宗教学史』・『真宗学史稿』を仮に基本文献とみなし、そこに記されている資料を核として、それにこれまで見いだされた資料を付け加えて「資料名目録」を作成した。これに依って今後未確認の資料を探し、また資料問題を作成していくことになるだろう。

〈資料検討会〉 学事研究にとって基礎資料の読解は不可欠の作業である。資料検討会では資料の現状が報告されるだけでなく、その資料の価値やそこから触発される問題が指摘され論議された。特に、六月十五日「高倉学寮敷地図について」(三本・深田)、九月二十六日「護法場創設記―上首寮日記より―」で、それぞれ研究補助員から報告があり、論議を通して、最も基本的な事実、例えば学寮の位置、学寮の日常生活、学習の実際などが不明のまま、であることが注意された。このような事実を明らかにすることによって、学寮・大学をその時代の社会的状況のなかで具体

的に捉らえることができるようになるのではないか。また、この着想から新しい方向に資料調査がなされることになるだろう。

△研究会▽ 研究員は当初、それぞれの課題を設定したが、年度半ばで『真宗』の連載「大谷大学―三二〇年史が語るもの―」が企画されるとそれに参加することになり、それぞれ大谷大学史の一時期を担当することになった。その際各研究員は研究代表者の示した方向に沿って、学寮・大学を教団・国家・時代のなかでトータルに捉らえてみようとした。それらは二月二十日の研究会で次の題で報告され、大桑研究員が総括的報告を行った。

「教権の下で―高倉学寮・宗学の成立―」（草野研究員）

「近代との邂逅―護法場・大学への萌芽―」（木場研究員）

「仏教の解放に向かつて―大谷大学の新生―」（鈴木研究員）

さらに三月十二日の研究会では囑託研究員二氏の報告が次の題でなされた。

「『親鸞の仏教史観』（曾我量深）をめぐって」（福島和人氏）

「異安心史について」（西田真因氏）

福島氏はそこで「仏教史観」とは何かを検討しながら真宗史への視点を問い、また西田氏は、異安心の分類と規準を整理し、いわゆる異安心史の問題が信仰の言語表現とその解釈という問題を現代に投げかけていることを示した。両氏の報告は、真宗の教学の史的研究がはらむ信心（仰）と歴史研究との内的緊張関係をあらわにし、本研究の思想的課題の深刻さを印象づけた。

## ◎海外仏教研究

「海外における仏教研究に関する方法論の研究および文献資料の収集」

欧米諸国における仏教研究は、ますます活発になり、注目されつつある。専門の研究者の数も年々増加し、研究分野・方法論も多彩である。それらの動向を的確にとらえるため、「海外仏教研究」は発足以来、資料収集・調査研究を行ってきた。その成果の一部は、『研究所紀要』（創刊号）、『研究所報』などに発表されている。

従来の研究成果を基礎にして、昭和六十年代においては、海外における仏教研究に関する方法論の研究を、主なる目的としてきた。さらに、文献資料の収集と検討もひきつづき行なわれたが、特にフランスにおける仏教研究を対象とした。定例の研究会もこれらのテーマにそって行なわれた。また、本研究では欧米における仏教研究のビブリオグラフィの作成をひとつの目的としているが、収集された文献にもとづいて、具体的にビブリオグラフィの作成にとりかかっている。

### △研究例会▽

定例の研究会では、研究テーマに即して、大学内外の研究者を招き、欧米の仏教学研究の方法論や、フランス仏教研究の現状などについて研究発表をしていただいた。

一、四月二十五日

「Vetter 博士をかむ」學術懇談会

Dr. T. Vetter (ライデン大学教授)

二、五月二十八日

「Etienne Lamotte の学問」

Dr. H. Durt (法宝義林研究所主任研究員)

三、六月二十日

「北米における仏教学の置かれている現状」

Dr. Shotaro Iida (University of British Columbia 准教授)

四、七月四日

「Recent Approaches to Hermeneutics and History in the Study of Buddhism」

Dr. John Maraldo (University of North Florida 准教授)

五、十月三日

「ウイスコンシン大学でのジョイントセミナー(浄土教)に参加して」

安富信哉研究員

宮下晴輝嘱託研究員

六、十月八日 「アメリカ仏教の一面—アメリカを旅行して—」

多田稔研究員

七、十月十七日 「中国的仏教研究」

楊曾文 (中国社会科学院世界宗教研究所仏教研究室主任)

八、十月二十二日

「Thoughts on the Epithet 'Arhajo' Used in the Opening Stanza of the 'Mahayanasutralankara」

Dr. Robert Thurman (Amherst College 教授)

九、十二月十七日 「On Understanding Religious Men and Women」

Dr. John Ross Carter (Colgate University 教授)

十、三月四日 「Shinjin: More Than 'Faith'?」

Dr. John Ross Carter (Colgate University 教授)

なお、Dr. John Maraldo の研究発表は「A Review of Some Approaches to Hermeneutics and Historicity in the Study of Buddhism」と題して、『研究所紀要』(二三号)に掲載された。また安富信哉研究員の発表は「アメリカにおける真宗学の動向—ウイスコンシン大学『浄土教ジョイント・セミナー』に参加して—」と題して、多田稔研究員の発表は「アメリカ仏教の一面—アメリカを旅行して—」と題して、また楊曾文氏の発表は「中国の仏教研究」と題して、『研究所報』(一四号)に掲載された。

また三月八日から四月二十二日のあいだ、毎週二回、コルゲート大学教授 Dr. John Ross Carter による仏教特別セミナーを開催した。この一般公開のセミナーは、Carter 博士が京都に留学中のコルゲート大学の学生のために行った日本仏教についての一連の講義であったが、大学内外からも多くの聴講者を集めた。今後もこのような欧米の講師によるセミナーが行われることを期待する。

△ビブリオグラフィ作成と資料収集について▽

欧米の諸言語で発表された仏教研究の論文・著作のビブリオグラフィ作成は、「海外仏教研究」発足当時から目的であるが、今年度も新たに発表された論文・著作をリスト・アップする作業を行ない、また従来作成されたビブリオグラフィを補足することに努力がそがれた。また欧米で出版された仏教研究書を収集し、三百冊ちかく購入した。

六十年度は特に仏教学関係の雑誌のバック・ナンバーを積極的に収集し、ビブリオグラフィ作成の資料とすることができた。

(昭和六十年年度囑託研究員 ロバート・F・ローズ)

### ◎ 西蔵文献研究

「大谷大学所蔵の北京版西蔵大蔵経及び蔵外文献の文献研究」

西蔵文献研究班も発足以来二年が経過した。当研究所報十三号で報告したように、本研究班は次の二部門よりなる研究を継続中である。

一、北京版西蔵大蔵経丹殊爾部の勘同目録の編纂

二、蔵外資料の研究

一、勘同目録は、大谷大学図書館所蔵の北京版西蔵大蔵経に収められた全典籍をデルゲ版・ナルタン版と対校し、それぞれの題名・章題・著者名・訳者名・校訂者名などの異同を示すとともに、各典籍の奥書を翻訳して研究者の便宜を計ったものである。甘殊爾部（經典部）の目録はすでに戦前に出版されていたが、戦後北京版大蔵経が影印出版されたことを機会に丹殊爾部（論典部）の目録の編纂が開始され、昭和四十年に第一分冊を出版して以来、第六分冊までが本学図書館より出版されている。さらに編纂作業は五十九年度に本研究班に移され、第七分冊（般若部と中観部）

が六十年五月に出版された。第七分冊の出版以降、編纂作業は第八分冊の出版に向けて進行中であり、六十一年度中にはその作業を終える予定である。現在編纂中の各部門は研究者のニーズも多く作業は慎重に進められている。第八分冊には経釈部・唯識部・阿毘達磨部が収録されるが、第八分冊を含めて二ないし三分冊で編纂作業は終了すると思われる。

二、本学図書館には翻訳文献としての右記北京版大藏経とは別に、チベット人自身の手になる蔵外文献が四千点以上も保存されている。蔵外文献に対する目録は昭和四十八年に出版されたが、この目録は索引を含まず利用に際して不便な状況が続いていた。本学図書館では以前より数名の研究員がチベット人協力者の白館戒雲氏（本学専任講師）とともに全文献の内容を整理したカードを作成していたが、その作業も昭和五十八年度をもってそのカードに基づく各種索引類の原稿の完成という形で一応の成果をあげることができた。そしてこの索引の出版も我々研究班の仕事に加えられた。研究班が発足した最初の一年間は、その原稿をチベット文タイプライターを用いて清書し、オフセット印刷に附すための版下作りに費やされたが、六十年度はそれに最終的な校正を加え、英文と和文による凡例および広瀬杲学長の序文を附し『西蔵文献目録索引』として十一月に当研究所より出版された。この索引は、(一)正式書名、(二)略書名、(三)著者名、(四)内容項目別の各索引および同一文献一覧表、目録訂正表からなり、二五五頁に及ぶ大部なものとなった。これによって本学の蔵外文献はより近づきやすいものとなったが、我々は、この索引が研究者に広く利用され、世界のチベット研究に資することを願って止まない。

さらに研究班はこれらの作業と平行して、蔵外文献中に見出される稀覯本を影印出版するための準備を進めてきた。今では各地の多くの蔵外コレクションが知られているが、本学のコレクションは木版による刊本のみならず中国

東北部で蒐集された多くの写本類を含み、他の専らチベット本土で蒐集されたコレクションに比べ際立った特徴をみせている。その中にはモンゴル人の手になる『大唐西域記』のチベット語訳写本、ダルマキールティの『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』に対するサンブ学問寺系の学僧による註釈の写本（これは世界に現存する唯一のもので、チベット人の書いた註釈の中で最も古いものの一つ）など貴重なものが数多く見られる。そして六十年度に我々は今後出版すべき十数点の文献の選定作業を終え、その第一巻としてチベット語訳『大唐西域記』が選ばれた。六十一年度には出版に向けて編集作業に取り掛かる予定である。

なお、上記『勘同目録』第七分冊および『西蔵文献目録索引』は当研究所において実費（勘同目録¥四、五〇〇・目録索引¥四、〇〇〇）にて配布中につき、入手希望の方は研究所受付けまで申し出られたい。

以上、六十年年度の研究の進捗状況を中心に今後の展望をも含めて報告した。

（昭和六十年年度研究員・チーフ 小川 一 乗）

### ◎大蔵経学術用語研究

「浄土教関係典籍における学術用語の総合的研究」

本研究は、『大正新脩大蔵経』第八十三卷・八十四卷所収の日本撰述浄土教関係典籍（日蓮宗関係典籍を含む）に

ついで、正確かつ厳密な解説を通して特に重要な學術用語を選定し、その分類研究を行うものであり、その研究成果は『大正新脩大藏經索引』第四十三卷統諸宗部六として昭和六十二年三月に公にされる予定である。この索引は、音次索引（五十音）・分類項目別索引・檢字索引（字画・四角號碼）から成り、本研究の成果を踏まえて収録典籍の解題と凡例とを巻頭に配するものであるが、現在すべての原稿を揃え点検作業を行いつつある所である。ここに選定された用語は、教理・戒律・人名・天文・地理・動物・植物・鉱物・心理・言語・紀年・芸能・美術等の三十項目に分類されて音次索引に配列される。各用語一つ一つには、それが属する分類項目が示されているので、仏教研究者は勿論のこと専攻を異にする研究者や初学者にも便宜と利益を与えるに違いない。

本研究で対象とした典籍は浄土宗、真宗、融通念仏宗、時宗、南都・叡山浄土教等、日本浄土教の代表的な典籍八十五点と日蓮宗関係の典籍十三点である。これらの中には、和文体のものが非常に多い。このことは、特に鎌倉・室町期の日本仏教、就中浄土教の民衆との深い関わりを物語るものと見る事ができよう。

以下、浄土教典籍を大きく三分して、本研究の内容を簡単に述べることにしたい。

第一に、源空と浄土宗各派の典籍については、まず源空の名著『選択本願念仏集』の學術用語を精査するとともに、弁阿や良忠等の註釈者達が源空の浄土教をどのように継承しているかを明らかにすることに努めた。次に『黒谷上人語灯録』等の研究により源空の教学と教化の全容を窺い、さらに弁阿・聖囀・向阿の著作を通して源空滅後の浄土宗鎮西義の確立の様相を明らかにした。特に向阿の『帰命本願抄』は念仏往生の要義を巧みな和文を以て説いたもので、彼の『西要抄』『父子相迎』を加えて、「三部仮名抄」と称される仮名聖教である。次に西山派の祖証空の『選択密要決』をはじめとして、証空没後の顕意・覚融・恵仁・明秀・妙瑞にいたる西山義の内容を検討した。

第二に、親鸞の著作と真宗の諸典籍については、まず、親鸞が撰述した典籍十三点と書簡集二篇について、『顕浄土真実教行証文類』を中心に親鸞の教学思想の解明を試み、その仏性思想に焦点をあてることによって、親鸞の教学が人間の尊嚴の問題に深く関わる独自性と普遍性を持つものであることの一端が明らかになった。また、漢文・和文両典籍相互の連関を用語の研究を軸にして確かめることを得た。次に『歎異抄』や『口伝鈔』等親鸞滅後に成立した典籍によって、親鸞教学の継承と本願寺教団の基礎確立の意義を考究することに努め、特に『歎異抄』の和語に注意を払いつつ、『顕浄土真実教行証文類』や聖覚の『唯信鈔』との密接な関わりを究明した。さらに、『蓮如上人御文』や『蓮如上人御一代記開書』等、本願寺中興の祖とされる蓮如関係の典籍に主眼を置きつつ、高田派の典籍三点や、『唯信鈔』・『一念多念分別事』のように真宗の人の著作ではないが親鸞とその門下に多大な影響を与えたものをも視野に入れて、真宗教学の生成を支えた思想的背景と真宗教団の発展ないし民衆化の問題について解明を試みた。以上は、『大正大藏經』第八十三卷所収の浄土宗および真宗関係の典籍における学術用語研究を企図したものである。

第三に、同八十四巻の前半に収録される浄土教典籍、融通念仏宗の融観の『融通円門章』、時宗第七世託何の『器朴論』、源信『往生要集』、永観『往生拾因』、著者不詳の『安養抄』、凝然『浄土法門源流章』等、同じ浄土教といっても多様な著作の一本について学術用語を研究した。特に注目されることの一つは、撰述当時盛んに行われたが今日現存しない資料が引用文として見出されたことである。『安養抄』には、法位の『無量寿経疏』、義寂の『無量寿経述義記』、智光の『無量寿経論釈』等の文が出され、当時の浄土教研究の動向を示すものとしても重要である。

第一・第二に於て我々は多くの和文典籍を対象とした。浄土宗各派の教義・真宗各派の教義は、その内容は差異があるが、往生浄土の実践面に関して一様に思索が深められている点や「弥陀をたのむ」「他力」等の用語が民衆教化

の中心になっている点に一応の共通点が見られることが知られた。今後なお学術用語の精査によって浄土教典籍相互の内的連関性を究明していくことが必要であり、本研究がその一助となり得ることをひそかに念ずるものである。

昭和六十一年度は浄土教関係典籍の索引の印刷に入り、その校正作業を進める。それとともに、昭和六十二年以降に予定している「日本撰述俱舍論関係典籍における学術用語の研究」の準備作業を開始している所である。

(昭和六十年年度研究補助員 三明智彰)

執筆者紹介

(昭和六十年度)

- 研究員 木村 宣彰…………… 本学専任講師 仏教学
- 研究員 佐々木 正昭…………… 本学専任講師 教育学
- 研究員 松村 尚子…………… 本学助教授 社会学
- 研究員 安富 信哉…………… 本学専任講師 真宗学
- 嘱託研究員 ロバート・F・ローズ (Robert F. Rhodes) …… 本学非常勤講師 仏教学
- 研究補助員 畠 山 正信…………… 真宗学
- 研究補助員 金 信 昌 樹…………… 真宗学
- 研究補助員 片 山 伸…………… 日本仏教史学
- ジョン・R・カーター (John R. Carter) …… コルゲート大学教授 宗教学
- ジョン・P・キーナン (John P. Keenan) …… ミドルブリー大学 宗教学
- ウォーレン・W・ライ (Whalen W. Lai) …… カリフォルニア大学  
デーヴィス校教授 宗教学

(別冊)

研究員	幡谷明	.....	本学教授	真宗学
嘱託研究員	藤嶽明信	.....	本学助手	真宗学
研究補助員	畑辺初代	.....	.....	真宗学
研究補助員	尾崎秀行	.....	.....	真宗学
研究補助員	辛嶋静志	.....	.....	インド哲学
研究補助員	佐藤智水	.....	.....	真宗学
研究補助員	武田定光	.....	.....	真宗学
研究補助員	鳥越正道	.....	.....	真宗学